

進路概況 2021 春

今春の卒業学年から、一学級減の学年4クラス（普通科3、理数科1）定員160名となった。最近5年の卒業生数と現役の進路・大学合格概況（延べ数）は

	学級数	卒業生数	国公立大	私立大学	短期大学	専修学校	就職
2021 (R3 春)	4	155	30	183	6	18	2
2020 (R2 春)	5	166	28	157	9	34	5
2019 (H31 春)	5	194	19	185	11	41	10
2018 (H30 春)	5	195	26	160	8	41	8
2017 (H29 春)	5	194	25	156	21	33	8

となっている。

近年、地方の公立高校からいわゆる難関大学への合格者は減少傾向が続いている。相馬高校も例外ではなく、医学部や、近くにある東北大の合格者がゼロの年もある。早稲田大や慶応大については合格者がいる年が稀なのである。

しかし、今春は、医学部にも東北大にも早稲田大にも合格者が出ている。更に、学級数減で生徒数が少なくなっているが、合格者数全体は増えてきている。菊田校長先生をはじめ先生方と生徒たちとのいい雰囲気が構築されているのを感じられ喜ばしい。

この相馬地方から、相馬高校から、難関大学に合格できる人がいるという実績は、地元の我々にとっては希望である。ネットで全国の高校の状況を容易に把握でき、交通も便利になってきた現在、中学生の進路も広範囲になっている。ここ相馬地方でも、中学卒業後の進路を、地元ではなく、県外（仙台ばかりではない）に見いだす生徒たちも少なからずいると聞く。

勿論、難関大学に合格することがすべてではない。相馬の幅広い多様な若者たちが、青春の3年間の人生の道場として、学び、集い、笑い、切磋琢磨しあい、学園生活を楽しんで、相馬高校の新たな歴史をつくりあげて欲しい。



「相馬中学校」(右)と
「相馬高等学校」(左)
の表示板のある校舎北の門
(3月31日)